八杉森

五位森～杉ノ谷山など安芸の北側の山並みがよく見える。

ミツマタ群生地

土川越

てんごのかわ
山の民は獣の皮を収入源として販売していた。ある日、原3政天という人が、ソチカラ越えて帰っていると日が暮れてしまいさびしくてたまらなくなった。ちょうど向こうから土川へ皮を買いに来た人に会った。政天さんは"オラくにも皮はどっさりある"いうて家までとまりにつれ戻した。
皮買いが"皮はどこなら"というと「この政天がてんごのかわよ」といって まんまとだまくらかした話があるそうな。

昔からの往還

裏政谷

サテ尾

このあたりは谷が深く歩道も全くない。横断は困難。

八杉森

河又柄尾山

あせび谷へ

ここまでは横川町の歩道はしっかりしている

裏正林道合

安芸営林署と呉営林署の境界を示したコンクリート標が立っている。

土川

てんごのかわとはわるふざけなどの意

風雨林-愛界標

アカヴン

政天のおんちゃん

伊尾木川と安田川の分水嶺となっている八杉森。
安芸平野からはどこか富士山に似た秀麗な山容がよく見える。
全山人工林。幾万本の苗木を植えて育てた先人の努力がどっしりと根ざしている。

ユズリ葉

飯場跡
酒ビン、コップ。アンカ。保存缶、布団はどがありかっくり土に置っている。

飯場物語
この山道の途中、飯場跡がひっそりあった。そのうちのひとつに缶詰空アトムのプラスチック製コップが残されており、
幼い子を家に残し山仕事に汗かき汗を流し、このコップを使うたびに幼子をなつかしむ父親の姿を想った。
実際は、酒びんも多く残っていたのでしんみりしたことはなかったであろうがなぜかせつない思いがした。

国有林

横ノ川の歩道

杉ノ谷

ひびが割れていた

アトムの誕生日は4月7日

落石注意

経点

八杉森の化け物

昔、兄弟の猟師が八つ杉山へ猟に出かけた。
二手に分かれて猟をしていた弟が大きな木の上にさまた鳥を見つけて何発も撃ったがどうしても当たらない。
異変を感じた兄がまてみると、木の上には何やら得体の知れぬ猫ばあのもんがおった。弟は化かされてそれが見えなかった。
兄は「大善薬黒金玉」のお守り玉をこめてそれを目がけて撃つと、「ギャー」とひんで落ちた。
それは頭と尾が八つある化け物で弟の鉄砲玉が尽きたら襲って食べるために狙っていた。
それで八つ杉山は昔は八つ尾山と呼ばれていたということである。

杉ノ谷杉山

八杉谷

人工林

天然林

ダバ水たまり

人工林

国有林境界

槙ノ谷林道

槙谷山

馬路に営林署の事務所があった時代「てんごのかわ」という飲み屋が大人気だった。

ホホン

安芸北方の山は深く谷に切れこんで山頂部になるほどゆるやかになっていることが多い。

「化粧山閣」
S37に大井小学校へ赴任した浜崎公弘によると当時は西ノ川で軌道を敷設して林道開設工事が行なわれ人の出入りも激しかった。
大井は教育熱心な地区で仕事のあとは 校長宅を囲んで伊尾木川と見下ろす「化ノ川閣」と称する料亭としてみんなで酒を飲んだという。

八杉森
1029m
山頂に三角点

山頂には2016年まで気象庁の雨量計観測施設が設置されていた。今はきれいに撤去され森林に原状復帰されている。

ハ杉森の「よび」
昭和のはじめか大正の頃かの話。
八杉森は ハツ(午後2時頃)になるともくうす暗くなるところだった。
ある日、赤岩の者達でシバ刈りに行った帰りに「ほおーい ほおーい いぬるぞ～」と全員が集まって帰り仕度をはじめた。
ところがまだ誰かが「ほ～い ほ～い」と呼ぶ声がしてすぐ近くで声がするが姿が見えない。
おそろしくなり皆な命からがら逃げてきた。
それは昔からハツ杉へはハツ過ぎたら行かれんという森で、その声は「よび」といってその山で災難において死んだり泣いたりした人の魂がそうやって呼んでいるのだという。
(江川の人の実体験)

南栃谷山

欠番の6林班
安芸市内にある国有林は熊押山1林班から杉ノ谷山52林班まで続いている。
その中で6林班だけが飛んで欠番となっている。
S29年の安芸市発足に伴う市町村合併のため、S31年に八杉森6林班の払い下げが行なわれたことによる。
市製が施行されたS29.8.1。安芸町、井野、井口、畑山、土尾、川北、伊尾木、東川各村が合併。

木の間の向こうに澄んで冬空と安芸の町並みが見えた。2017.12.18

槙の谷の滝

アカガシ巨木2本

林道

至大磯

藤内へ

藤内小学校はS29～54までの短い期間であったがその前身はM15(1882)に奥栗名川(なごう)の両地区が共同で私立奥栗名川組合公同教授場として西他区交互に開かれていた。
T10、茶北尋常小学校名川分教場を公立として開校。戦後入植者の為に茶北第二小学校藤内分校となっていた。

タヌキに化かされないようにマユモをつばで固めて山に入ることを幼い頃祖父に教えてもらった。

タヌキは人のマユモの数を読んで人を化かす。

参考文献
安芸市の民話の

河又柄尾山

槙谷山

馬路

終点

シモベシラはシソ科のタク年草。冬の寒い朝、枯れた芝にまっ白く花がひだいたように霜柱ができる。このあたりクタに生息。

河又林道

シモバシラ

冬はシモバシラが白い氷の花を見せてくれるよ。